

1

株式会社富士通ゼネラル

	各社の考え方
① 算定を行う 背景・目的	<ul style="list-style-type: none">● 当社の事業活動におけるCO2排出量の全体像及びホットスポットを把握する● ステークホルダーからの情報開示要求への対応および説明責任を果たす
② 算定結果の 活用方法	<ul style="list-style-type: none">● 事業活動におけるCO2排出量のホットスポットの特定と課題抽出● 環境報告書、公開ウェブサイト等への情報開示● CDPなどの外部調査への回答
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none">● 当社の事業活動におけるCO2排出量のうち、排出量の多いカテゴリーを把握、効率的な削減計画の立案と活動推進を図ることができる● ステークホルダーからの情報開示要求へ対応することができる
④ 社内の 算定体制	<ul style="list-style-type: none">● 各拠点の環境データ管理者、調達、物流、人事部門より得られたデータを本社環境部門が集計、全体の取り纏めを行う

2

株式会社富士通ゼネラル

	各社の考え方
⑤ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて	<ul style="list-style-type: none"> ● 第8期環境行動計画（2016-2018年度）では、以下目標を設定し活動を推進している <ul style="list-style-type: none"> ・スコープ1・2関連 <ul style="list-style-type: none"> 生産時のエネルギー使用量削減 評価試験設備の電力使用量削減 ・カテゴリー1関連 <ul style="list-style-type: none"> 省資源化設計の推進 銅・アルミ・鋼材の使用量削減 ・カテゴリー4関連 <ul style="list-style-type: none"> 製品の倉庫間移動の削減 製品輸送効率の改善 ・カテゴリー11関連 <ul style="list-style-type: none"> 製品使用時のCO2排出量削減
⑥ サプライチェーン 排出量算定の 課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 算定に係る工数（データ収集、算定）の削減 ● データ収集が困難なカテゴリー（海外拠点等）のデータ精度向上
⑦ その他 （任意）	

3

株式会社富士通ゼネラル

カテゴリ	算定方法 ※算定対象期間：2017年4月～2018年3月	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 部材の購入量	● 購入量当たり原単位 (*1)
カテゴリ2「資本財」	● 資本財の調達額	● 金額当たり原単位 (*2)
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● エネルギー種別毎の調達量	● エネルギー種類の原単位 (*2)
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 荷主分の輸送に係る燃料使用量	● トンキロ或いは燃料当たりの排出係数 (*3)
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種別重量	● 廃棄物種別原単位 (*2)
カテゴリ6「出張」	● 出張旅費金額	● 移動手段別原単位 (*2)
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 通勤交通費支給額	● 移動手段別原単位 (*2)
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● 賃借しているリース資産額	● 金額当たり原単位 (*2)
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 輸送重量および輸送距離	● トンキロ或いは燃料当たりの排出係数 (*3)
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 製品重量	● 組み立て品製造工程当たりの原単位 (*4)
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 消費電力量、製品重量、製品寿命、販売台数	● 消費電力量当たりの原単位 (*5) ● 製品重量当たりの原単位 (当社作成)
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 製品重量	● 製品重量当たりの原単位 (*2)

*1：国立環境研究所 産業連関表による環境負荷原単位データブック（3EID）

*2：環境省・経済産業省サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン

*3：経済産業省・国土交通省 物流分野のCO2排出量に関する算定方法ガイドライン

*4：LCA日本フォーラム JLCAデータブック

*5：GHGプロトコル GHGプロトコル排出係数データベース

4

株式会社富士通ゼネラル

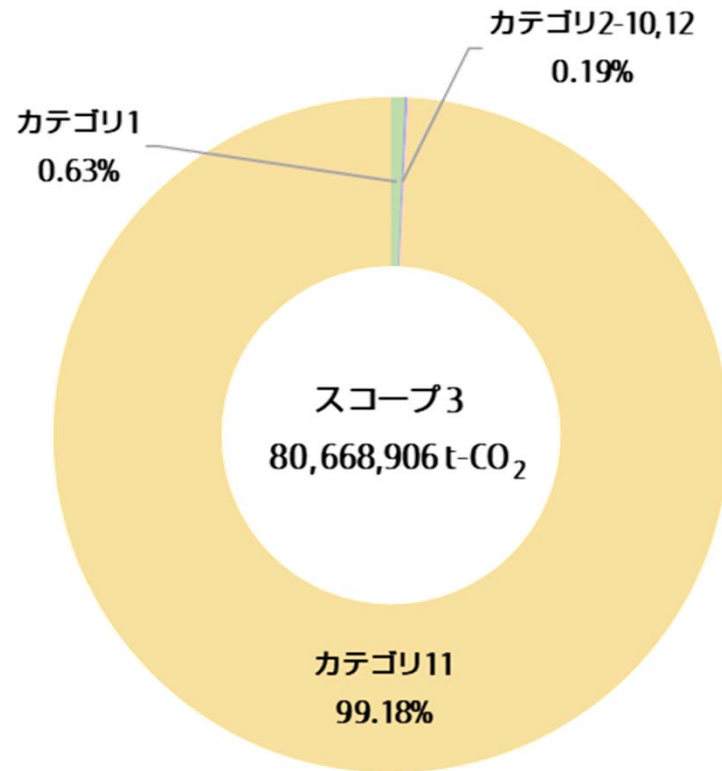
カテゴリ	算定方法	※算定対象期間：2017年4月～2018年3月	
	活動量	原単位	
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● 非該当		
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 非該当		
カテゴリ15「投資」	● 非該当		
「その他」	● 非該当		

5

株式会社富士通ゼネラル

サプライチェーン排出量算定結果

サプライチェーン排出量 (2017年度)



スコープ・カテゴリ		排出量 (t-CO ₂)
スコープ3		80,668,906
カテゴリ1	購入した製品・サービス	511,763
カテゴリ2	資本財	19,646
カテゴリ3	エネルギー関連活動	2,622
カテゴリ4	輸送、配送 (上流)	78,194
カテゴリ5	事業から出る廃棄物	1,718
カテゴリ6	出張	1,521
カテゴリ7	雇用者の通勤	301
カテゴリ8	リース資産 (上流)	479
カテゴリ9	輸送、配送 (下流)	44,971
カテゴリ10	販売した製品の加工	11
カテゴリ11	販売した製品の使用	80,006,809
カテゴリ12	販売した製品の廃棄	871
カテゴリ13	リース資産 (下流)	—
カテゴリ14	フランチャイズ	—
カテゴリ15	投資	—
その他 (任意)		—